

ふくし TIMES

http://www.knsyk.jp

vol. 744



ともしび運動

2013. 11

福祉タイムズ

編集・発行 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会



(撮影・菊地信夫)

安心とつながりを届けたい

継続の秘訣は？と尋ねると、「心身ともに健康なことかなあ」と優しい笑顔で答えてくれる。藤沢市にある地区ボランティアセンター「ライフタウン・ジョワ」で傾聴ボランティアとして活躍する伊藤節夫さん。定年退職後、介護ヘルパーとして働いていた経験から傾聴の必要性を感じ、技術を学んで4年前に活動を始めた。東日本大震災直後は特にニーズが増え、「地域とつながったことで安心してもらえたようです」と伊藤さん。安心とつながりを届けるパイプ役、その穏やかな表情が印象的だ。【関連記事12面】

contents

- 02 特集 「一人の生活課題」と「地域」をつなぐ
社協の役割とは
- 04 NEWS & TOPICS
神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会50周年
を迎えて／家族の介護負担と高齢者虐待
- 06 私のおすすめ 障害のある人の料理術
- 07 福祉最前線
(公社)日本オストミー協会 横浜市支部
- 08 連載 「社会的孤立」とは何か？(第2回)
- 10 県社協のひろば
・第62回神奈川県社会福祉大会開催報告
・第2回きらっと輝く製品コンテスト開催報告
- 12 かながわ^{net}情報
湘南大庭地区社会福祉協議会(藤沢市)

「一人の生活課題」と「地域」をつなぐ社協の役割とは

―新たな福祉の仕組みが動き出そうとする中で

地域包括ケアシステムや生活困窮者自立支援法案など新たな仕組みが動き出そうとしています。生活問題を抱える人を、住民同士が声を掛け合い、問題が深刻化する前に支え合うとともに、専門職とも協働することにより、身近なところで支えられる「地域」の土壌づくりが重要です。

今回の特集では、社会的孤立など今日的な福祉課題に対する県内市町村社協の実践を紹介しながら、「誰もが暮らし続けられるまちづくり」を目指す市町村社協の役割をお伝えします。

事例「ゴミの臭いで苦情が出ている。何とかできないか」

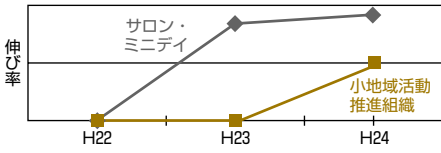
A社協にある日、住民からBさん宅のゴミの臭いの相談が寄せられました。地域包括支援センター担当職員、地域活動支援担当職員は、早速状況把握に向きました。

毎日の暮らしは何とかができているけれど、片付けが苦手なBさん。近隣住民も気をもんでいたものの、Bさんは周りに決して頼ろうとはされず、徐々に地域で孤立していた状況がうかがえました。

社協は行政の保健師と連携して定期訪問を行いながら、近隣の苦情につながるゴミ処理を手伝い、Bさんが自分で片付けられるよう働き掛けました。また、A社協では以前から自治会連合会圏域を目安に住民による福祉活動を組織化しており、家の周りの手入れは、こうした住民の助け合い組織の協力を得て行いました。

Bさんが地域で暮らし続けていくためには、当面の課題解決だけでなく、近隣との関係づくりが不可欠です。社協は、民生委員児童委員や住民サロンの活動者等に声を掛け、Bさんの支援を考える場を持ちました。そこで、Bさんとの信頼関係ができるまでの間、近隣住民には肯定的なかかわりをしてもらうこと、Bさんの暮らし方への苦情は社協が受け止める等の役割分担を行い、情報

参考：ここ3年間の活動数の推移



年度	サロン・ミニデイ	小地域活動推進組織
H22	661	314
H23	768	315
H24	781	346

※政令市除く30市町村 (単位：箇所)
身近な住民同士の交流や身守り、助け合い活動を目的とする小地域の活動は最近特に増加しています

共有しながら、Bさんを支える地域のネットワークをつくっていくことになりました。

このような働き掛けを続けてから半年。Bさんと近隣住民との関係は少しずつ変わってきています。問題が生じたときには、その都度、専門職と地域のネットワークの両方が動き、Bさんの暮らしを支えています。

事例「親亡き後、娘の暮らしを誰が支えていくのか？」

古くからある住宅街で、70代の女性が亡くなりました。近隣の住民から民生委員児童委員への「最近、姿を見かけない」という相談がきっかけとなり、亡くなって間もなくの発見となりました。この家には亡くなった女性と、40代になる娘のCさんが住んでいました。Cさんには精神疾患があり、長く仕事をしておらず、近隣とのかかわりもなく、母子

でひっそりと暮らし続けていたのです。

「生活全般を担っていた親の亡き後、娘を誰が支えていくのか」と、民生委員児童委員から相談を受けたD社協の地域包括支援センター職員は、まずCさん宅を訪問し、状況を把握した上で、行政と社協の日常生活自立支援事業担当職員に報告しました。翌日には日常生活自立支援事業担当職員がCさんと面談を行い、財産管理を含めた今後の生活課題を整理し、後見人申し立てに向けた調整に動き出しました。

行政の障害福祉担当は在宅生活に必要なサービスを調整し、成年後見の首長申し立てを行うことになり、また民生委員児童委員や自治会には、近隣住民と共に日常の見守りをお願いし、行政・専門機関と地域住民とのネットワークによる支援体制が組まれることになりました。

このようなケースは最近増えており、新たな地域の課題となっており、福祉サービスを利用していない障害のある方、特にその親亡き後、また高齢者世帯の孤立を防ぐためには、日々の地域の見守りと専門機関とのネットワークが欠かせません。

その後、D社協の呼び掛けにより、この地域で自治会との協働モデル事業「見守りパートナー育成プロジェクト」が始まりました。この事業は、地域住民が向う三軒両隣のさりげない見守り活動を行いつつ、住民では

解決できない問題が発生したときには専門機関につなぎ、問題が深刻化する前に対応できる新たな支え合いの仕組みづくりを目指したものです。

モデル事業の中で、住民と専門機関とが身近な存在となるよう、地域の実態や防災に関する研修会、地域点検などを一緒に行い、顔の見える関係づくりを意識し、相互の絆を深めてきました。この地域では、現在約15人の「見守りパートナー」が地域のキーパーソンとして活動しています。

※2事例は個人が特定されないよう加工して掲載しています

事例から見える 社協の役割と特性

市町村社協は、日常生活自立支援事業や地域包括支援センター、各種在宅サービスなどの直接的な住民サービスをを通して、あるいは、ボランティアグループ・当事者団体・地区社協・自治会・民生委員児童委員協議会等への支援を通して、直接的あるいは間接的に地域住民の生活課題を把握しています。

そして、日ごろからの地域住民や関係者とのつながりを生かし、さまざまな協力を得ながら、住民一人ひとりの生活課題の解決に取り組んでいます。また、「一人の生活課題」の解決から、同様の問題を抱えた人

たちの存在を考え、そうした方々にも対応できるような仕組みを、小学校区や中学校区などの身近なところを基本にしつつも、市町村全域も視野に置いて活動していくところに社協の役割と特性があるといえます。

市町村社協部会の取り組み

地域包括ケアシステムや生活困窮者自立支援法案等、新たな仕組みが動き出す中で、身近な地域での問題の早期発見や支え合い活動など、「地域」に対して、多くの期待が寄せられています。

本会市町村社協部会（以下、「部会」）では、このような動向を踏まえ、あらためて社協の特性を生かし、個人の生活課題と地域をつなぐ取り組みを強化していきたいと考えています。平成24年度は「社協によるコミュニケーションワーク実践のための検討会」で課題を整理し、本年度には検討会



葉山町社協が関係者との協働で実施する農作業を通じた介護者支援事業。収穫した芋を持って笑顔でパチリ。こうした活動と「一人の生活課題」がつながり、強い絆の地域が生まれます

からの提案を踏まえ、県内4地域で「支え合いの地域づくり推進モデル事業」を進めています。

その一つ、清川村社協は、民間パスの路線が一部廃止となった地区における、住民によるコミュニケーションパス運行に向けた支援に取り組んでいます。スーパーや商店街が近くになり地域では、高齢等のために車の運転ができなくなると、日常生活の維持そのものが困難になります。社協ではこうした生活ニーズを受け止める、住民活動の中心メンバーの主体性を尊重しながら、運行実現に向けた後方支援を行ってきました。さまざまな経過を経て、本年度中には住

民の夢が実現する予定です。

部会では、社協の役割や特性をより多くの方々に知っていただき、協働による地域福祉推進の場としての「社協」を活用してもらうため、「かながわの社協からの提案2013」住民が抱える生活課題の解決に向けて（仮称）の作成を進めています。社協の活動や役割を知っていたら、き、今回ご紹介したような、一つひとつの実践の場面を通して、一人でも多くの方々に、地域福祉を推進する協働の輪に加わっていただきたいと考えています。

（地域福祉推進担当）

関東学院大学文学部現代社会学科 教授 山口 稔



地域の支え合い強化が 急がれています

本学現代社会学科では、社会福祉の活動を中心として地域連携・社会貢献の理論と実際を学べる環境の整備を進めています。その一環として、葉山町社協と協働して、農作業を通じた介護者支援活動を展開しています【写真】。これは「介護」を切り口とした地域における新たな支え合いを生み出す取り組みとして位置付けられるものです。

人は地域のさまざまなつながりの中で生きています。しかし、無縁社会と呼ばれる現代社会では、生活課題を抱えながら、つながりが弱い人々の存在が大きな社会問題となっています。そうした状況に置かれている人々と、生活圏としての地域にある助け合いを結び付けていくこと、さらに、専門的なサービスなどを結び付けていくことが社協の大切な役割の一つです。つながりの中には、家族・親族・友人・住民・ボランティア・NPO・福祉関連専門機関だけでなく、商店街・小中学校・企業・大学など幅広い主体が含まれます。

皆さんの協働による支え合いのつながりの強化が急がれています。

誰もが安心して暮らせる
社会のために―神肢連50周年を迎えて

「神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会」(以下、「神肢連」)は、今年、結成50周年を迎えます。心身に障害のある方たちが社会で自立できる環境を整えていくために、これまで神肢連は、さまざまな取り組みを進めてきました。

「神肢連」発足の歴史的背景

終戦から2年経った昭和22年、戦災孤児や浮浪児・引揚孤児支援に向けた児童福祉法が制定されました。この法律により、子どもの保護や健全育成への関心が高まり、肢体不自由児施設(※1)の制度的な基礎も築かれたのです。

※1 上肢や下肢、体幹機能に障害のある児童の治療と、将来において自立自活するために必要な知識・技術の習得を目的とする、児童福祉法上の福祉施設

しかし、戦後の混乱のさなか、心身に障害のある子どもたちの支援体制の広がりには遅々たるものでした。こうした状況を受け、昭和33年、県は、通学支援の機能を持った肢体不自由児施設「ゆうかり園」を開設します。療育と教育機能を

兼ね備えた福祉施設は、親たちの長年の願いでもあり、全国的に先駆けた取り組みとして大きな注目を集めるものでした。

同年には横須賀市の医師が中心となり、県下初の肢体不自由児父母の会が発足。その後、藤沢市・鎌倉市・川崎市生田地区・「ゆうかり園」利用児の父母の会や、横浜市鶴見区で父母の会が立ち上がり、この6団体による結成総会が行われた昭和38年、神肢連は誕生したのです。

発足から50年、現在は県内で32団体・900人が会員として活動しています。発足当時は公立養護学校の設置を目指し活動してきましたが、時代が移るに従って地域作業所の増加や在宅支援など、地域の中で安心して暮らせるサポートの充実を親の視点から訴えてきました。そして障害者総合支援法の成立により、財源不足による地域間の格差が問題視され、サービスの差別化を無くすことがこれからの課題となつていきます(※2)。

※2 本年度本会提言集にも、今後の課題を受け、提言が出されています(http://www.knsyk.jp/s/global_syakyou/seisakuteigen.html)

福祉の充実を目指して

10月5日に行われた50周年記念式典では、「先達が汗を流して開いた道を、後ろに続く人たちが歩きやすいものとするのが我々の役割である」と、神肢連会長の石橋吉章さん。

神肢連会員の高齢化が進んでいくことから、親亡き後を視野に、経済的自立に向けた公的支援や短期入所施設、緊急一時預かりの整備等が喫緊の課題であると、参加者に投げ掛けました。

当事者家族の声を引き出すとともに、必要な支援のあり方について関係者に情報を発信し、仕組みづくりの議論に積極的にかかわっていく。変わらぬ神肢連の姿勢が発信されています。



①②式典では、神肢連会長の石橋さんから50周年記念の団体旗が紹介されました
③(福)みどりの家診療所所長の三宅捷太さんによる講演に、熱心に耳を傾ける参加者たち

(企画調整・情報提供担当)

年表 神肢連50年のあゆみ

1947年(昭和22)	児童福祉法公布
1958年(昭和33)	県立ゆうかり園開設(肢体不自由児療護施設)
1963年(昭和38)	横須賀市肢体不自由児父母の会発足(県下第1号)
1964年(昭和39)	神奈川県肢体不自由児父母の会連合会結成
1965年(昭和40)	第1回神奈川県肢体不自由児福祉大会
1966年(昭和41)	県下心身障害児父母関係団体の連絡協議会結成
1967年(昭和42)	横須賀市に肢体不自由児特殊学級「やまゆり学級」設置
1968年(昭和43)	第1回心身障害児者父母の会大会
1969年(昭和44)	県立さがみ緑風園開設(肢体不自由者更生施設)
1970年(昭和45)	県、神肢連を通じ在宅児機能訓練器具交付事業開始
1978年(昭和53)	県立平塚養護学校開校(県内最初の肢体不自由児校)
1979年(昭和54)	県立こども医療センター内、こども病院・肢体不自由児施設・ゆうかり養護学校分校事業開始
1987年(昭和62)	神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会として名称変更(ゆうかり園)
1991年(平成3)	第1回「車いす空の旅」
1999年(平成11)	神肢連と上海市残疾人聯合会友好団体調印成立
2013年(平成25)	北欧福祉視察訪問団派遣
	神肢連旗作成(神肢連結成50周年事業)
	結成50周年記念式典

※神肢連年史より本会作成

●厚労省「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」スタート

9月27日、厚労省は「第1回社会福祉法人の在り方等に関する検討会」を開催した。来年1月までの間、計5回の会議の中で、社会福祉法人の「担うべき事業」「効率的な運営の強化」「透明性の確保」「サービスの質の向上」について議論し、関係団体へのヒアリングを経て、5月ごろをめどに報告書をまとめる予定。

●補助犬のさらなる普及を

10月1日、身体障害者補助犬法の全面施行から10年を迎えた。国の認定を受けて活躍する補助犬（盲導犬・介助犬・聴導犬）は、いまだ1,129頭（うち本県65頭）にとどまっている。

★（公財）日本補助犬協会では、将来補助犬として訓練を受ける仔犬や、引退犬の飼育ボランティアを募集中

☎045-951-9221（受付：平日10～17時）

FAX045-951-9222 URL <http://hojyoken.com>

●生活保護2法案 国会へ再提出

10月15日、政府は「生活保護法改正案」と「生活困窮者自立支援法案」を閣議決定した。2法案とも先の国会で廃案となったが、生活保護法改正案は一部を除き来年7月、生活困窮者自立支援法は2015年4月の施行を目指す。

●保育士確保 ハローワークの機能強化へ

厚労省は10月16日、保育士の確保に向けて、ハローワークを活用した「保育士マッチング強化プロジェクト」を打ち出した。待機児童対策の受け皿づくりにあたり、平成29年度末には全国で約74,000人の保育士が不足する見込み。そこでハローワークが各自治体と連携し、求職者と保育園ニーズを踏まえた仲介の強化を図る。

家族の介護負担と高齢者虐待——報告書「養護者の高齢者虐待に至る背景要因と専門職支援の実態・課題」から

急速な高齢化に加え、生産年齢人口の減少により、高齢者介護の支え手は減少の一途をたどっています。介護サービスの整備が進みます。介護サービスの整備が進む一方、介護者の大部分を家族が占める状況に変わりはなく、家族の介護負担と高齢者虐待との関係性を否定できない状況にあります。そこで、日本高齢者虐待防止学会研究調査委員会と朝日新聞社

は、養護者（高齢者の主たる介護者）が高齢者虐待に至った背景や要因、養護者への専門職支援の実態等について共同調査を行い、本年9月に報告書を公表しました。道府県庁所在市・政令市の区・東京23区の自治体を対象とした調査結果から、「通報等から48時間以内の事実確認など、初動体制に課題があること」「介護認定『未申請』や『申請中』では、民生委員児童委員が相談・通報者として活躍しており、専門職のかかわりの少ない高齢者への見守りネットワークさらなる強化が必要である

こと」などが明らかになりました。また、「養護者は息子が最も多く、年齢が低いほど早期に虐待が発生」「養護者の3割以上に精神疾患（疑い含む）が認められる」といったことから、地域社会と疎遠な世代による虐待の増加を踏まえ、働く世代の介護離職対策、就業経験のないまま親と生活を続けてきた子への就労支援など、介護世帯の孤立防止と養護者支援の課題を投げ掛けていきます。

※本調査報告書は、日本高齢者虐待防止学会ホームページ（<http://www.japea.jp/>）に掲載されています

（企画調整・情報提供担当）

一般家庭から大型ビルまで最新のエレクトロ技術により安心と安全を提供します。防犯カメラや新型AEDも取扱っております。

京浜警備保障株式会社

代表取締役社長 岡本誠一郎

本社 〒221-0056 横浜市神奈川区金港町5番地10 金港ビル4F内
☎(045)461-0101 代表 FAX(045)441-1527

一般社団法人

神奈川県福祉研究会

福祉施設経営相談室 税務・会計の専門相談員

理事 伊藤 正孝(☎045-412-2110)

同 辻村 祥造(☎045-311-5162)

同 西迫 一郎(☎046-221-1328)

同 林 雄一郎(☎0466-26-3351)

代表理事 八木 時雄(☎042-773-9266)

あなたの情報発信のおてつだい
デザイン・印刷・ホームページ制作



きかん印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒238-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12
営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902
制作部 TEL045(785)1788 FAX045(780)1588
<http://www.kki.co.jp/>

私のおすすめ

障害のある人の料理術

～ちょっとした工夫で快適キッチンを実現～

先月号で紹介されていた行楽弁当、美味しそうでしたね。味覚の秋、お弁当だけでなく温かい鍋料理が楽しみな季節の到来です。「最近、自炊をしていない」「料理はちょっと苦手だな」という人も、肌寒い日は家でほっこり温まりたいはず。そこでKILCも今月は、障害のある人の目線に立った料理をするときのひと工夫、使って便利な商品・サービス、調理用具探しのヒントをお伝えします。

今月は

⇒ (N) 神奈川県障害者自立生活支援センター
がお伝えします!

通称KILC(キルク)。1997年4月設立。障害者の自立生活を目指してピアカウンセリング(障害者による相談事業)や各種情報提供、障害者施策の研究・提言など障害当事者の目線で共生社会の実現を目指した活動を展開。現在、厚木・平塚2カ所を拠点に活動中。

<連絡先> [法人本部] 厚木市愛甲1-7-6

☎046-247-7503 FAX046-247-7508

URL <http://www.kilc.org>

E-mai info@kilc.org

+ ❖ “みじん切り”にも、ひと工夫

上肢に障害がある人にとって、調理の悩みの一つは「手で押さえるのが難しい」こと。包丁を使って材料を刻もうとしても「まな板や野菜が滑って上手くいかない!」なんてこと、ありますよね。

野菜を丸ごと押さえたり、みじん切りにするのが難しいときは、皮むき器で薄くスライスしてから切ってみてください。まな板の下にぬれタオルなどを敷き、滑り止めにすることも忘れずに。ちょっとした工夫で手にかかる負担を小さくできます。



(左) カット済み野菜を使ったり、事前に野菜を切って保存しておいたり
(右) 下準備がスムーズに進むと、意外と料理も楽しいものです

+

❖ 発想の転換でキッチンを使いやすく

「キッチンが使いづらい」という声は、車いすを利用する人からよく聞かれるお悩みです。

たとえば備え付けの調理台の位置が高すぎる場合、食器棚の引き出し部分をスライドテーブルに改良すると、調理しやすくなります。食器の収納棚が高いところにあって使いづらいときには、キャスター付きのラックを代用すると便利です。



(左) キャスター付きラックを使えば食器の出し入れも簡単
(右) スライドテーブルで卵割りも楽々! 自分仕様のキッチンに改良できれば、料理もきっと数倍楽しめるはず



❖ 最短3時間! 食材宅配「ネットスーパー」

障害のある人の中には「食材を買いに行くのが大変」と言う人も少なくありません。

そんな人には「ネットスーパー」がおすすめ。インターネットで注文すると、最短約3時間で最寄りのスーパーマーケット等から配送されます。食材のほか、弁当や寿司などの総菜、トイレトーパーや洗剤といった生活用品など、売り場にあるほとんどの商品を届けてくれます。1回につき100~500円程度の配達料がかかりますが、中には一定額以上の購入で無料になることもあり、店内の移動や、重い荷物を運ぶことが難しいとき、まとめ買いにも便利です。

❖ 料理の腕を磨いて楽しもう!

食材・道具・キッチン…準備は万端!?それでも、調理には常に危険が伴うことをお忘れなく。やけどや火の扱いが心配な方は、(N) 神奈川県視覚障害者福祉協会の紹介する、電子レンジやオーブントースター、電子炊飯器を使ったレシピに挑戦してみたいかがでしょうか。また地域では、障害のある人を対象とした料理教室を開催している機関もありますので、障害当事者団体や社協等に問い合わせしてみてください。

この冬、あなたも料理の腕を磨いてみませんか。

インフォメーション

- 高齢者・障害者等 安全・簡単・おいしいクッキングレシピ
(N) 神奈川県視覚障害者福祉協会
URL http://www.npo-kanagawa.org/recipe_index.html
- “調理器具等福祉機器”の検索ができるホームページ
(財) 保健福祉広報協会「国際福祉機器展」
URL <http://www.hcr.or.jp/>

(公社)日本オストミー協会 横浜市支部

支部長 山田 初男



昭和44年、横浜市内にオストメイト団体「互療会」を創設。その後、全国に支部が立ち上がり、現在は「(公社)日本オストミー協会」に改称。本県内には、横浜市支部(会員486人)のほか、神奈川支部(同411人)、川崎市支部(同128人)が活動。
〈連絡先〉 ☎045-475-2061 FAX045-475-2064
URL <http://www.normanet.ne.jp/~yhamajoa/>

◎このコーナーでは県内各地の福祉関連の当事者・職能団体等の方々から日ごろの取り組みをご寄稿いただきます。

信頼されるピアサポートを目指して

「オストミー」とは、人工肛門・人工膀胱(ストーマ)を造設する手術のことを言い、ストーマが腹部に造設されている人たちを「オストメイト」と呼びます。

さまざまな病気や障害によって「ストーマ生活になる」と伝えられ、「自分はどうなってしまうのだろう」「生きていけるのだろうか」と、多くの方々には先行きの見えない焦燥感に駆られます。ストーマ生活が始まれば、排せつにかかわる面で常に緊張と不安の中にいます。排せつの失敗は家族にもなかなか言えません。

そんなとき、先輩オストメイトに出会い、「自分一人ではなかった」ことを知り、先輩の明るい話し声や元気に驚きすら感じながらも、少し先の自分のモデルとして見通せ、生きる力を回復できた方もいらっしゃいました。「同じオストメイト=仲間(ピア)」だから、辛さも表現でき、分かり合え、似たような体験の中で生活の知恵を伝え合い、学び合い、支え合えるのだと思います。

本会活動の研修会・相談会・懇談会・広報誌そのものが情報提供であり、ピアサポート活動です。孤立と不安

に落ち込むオストメイトが一人でも少なくなり、支える側も、支えられる側も、家族も、お互いに元気になり笑顔になれることを願い活動しています。

昨年度は、横浜市支部で「オストミーピアサポーター・オストミービジター研修」(※)を開催しました。「オストミービジター」とは、手術前後の患者さんが入院する病院に先輩オストメイトが訪問し、前向きに元気になっていただくお手伝いをする活動です。県内外の支部会員や医療関係者の参加もあり、「ピアサポートは、支援する側自身の生活にとっても『豊かさ』『やりがい』『充実感』につながる」等の感想が寄せられました。

また、神奈川支部では介護職向け研修会「ストーマケアの基礎知識」を開催するなど、医療・介護・関係機関とのネットワークづくり、担い手の情熱とマンパワーをどう高めていくかが、今後の課題だと感じています。ピアサポート・ビジター活動が信頼され、社会資源となる日を祈りつつ、さらに研修を重ねていきたいと思ひます。

※平成24年度本会「地域福祉(ともしび)推進助成金」助成事業

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために!

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金が充実
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。



プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乘せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。

団体
契約者
社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱
代理店
株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(S)J12-11537 2013.2.4 作成)

こころの病と「社会的孤立」

こころの病気（精神疾患）で通院・入院している人たちは、県内に約18万人。「メンタルヘルス」「うつ病と自殺」「被災者のこころのケア」など、さまざまな場面でこころの病気を取り上げられるようになり、幅広い世代の生活課題として関心が向けられています。国では、住み慣れた地域を拠点とした精神保健医療福祉の仕組みづくりを打ち出していますが、医療機関にはまだまだ多くの長期入院患者が生活しており、社会的入院の解消や地域生活移行は大きな課題です。

そこで今回の連載は、「生活支援施設 萌木」施設長の武津美樹さんにお話を伺い、精神障害のある方の地域生活移行に向けた実践から、こころの病気と「社会的孤立」について考えます。

精神病床入院患者と 地域生活移行支援・定着支援

本県の精神科病院等への入院患者数はおよそ1万3千人。退院者の平均在院日数は238・7日。疾患別では、統合失調症・認知症・うつ病の順に多くなっています。全国的にもこころの病気を持つ患者数は急増しており、精神病床数はほとんど減少していません。

地域生活移行に向けて、障害者総合支援法では、入院中から住まいの確保や新生活の準備等を行う「地域移行支援」、退院後も24時間の連絡相談等のサポートを行う「地域定着支援」を創設し、また本県では、地域で暮らすピアサポーター（当事者）による入院患者への情報提供や、退所後の訪問支援（アウトリーチ）の強化などが進められています。

そして、こうした支援の一翼を担うのが、今回お話を伺った武津さんが施設長を務める「生活支援施設 萌木」（以下、「萌木」）です。

三浦市にある萌木は、精神科病院を運営する（医財）青山会が開設した精神障害者生活訓練施設を前身に、平成11年より、グループホーム・ケアホームやアパート等での生活に向けたサポートを行っています。利用期間は原則2年。デイケアや就労移行支援事業所等に違いながら、利用者は服薬や通院、金銭管理や掃除・洗濯、対人関係のトレーニング等、暮らしに必要な生活スキルを身につけます。

「病状が落ち着いていても、『患者』から『生活者』に変わっていくには時間がかかる」と武

津さん。こころの病気や長期入院を背景とした、地域生活移行の課題があるようです。

事例 私のことを見捨てないでくださいね

学生のころから幻聴に悩まされてきたAさん。何か不安なことがあると、耳元で誰かがささやくような声が聞こえてきます。その声をかき消そうと、誰かれ構わず一方的にまくしたてて話す癖があり、人間関係のトラブルが絶えません。アルバイト先でも、仕事の段取りがなかなか覚えられず失敗ばかり続きます。「仕事が出来ないか」と店長に相談をしましたが、結局契約を打ち切られてしまいました。

Aさんの言動がどうもおかしいと思った親が総合病院に相談したところ、医師から精神科の受診を勧められました。しかし病識のないAさんは、通院を固く拒否しました。次第に周りに人が寄り付かなくなり、ひとり落ち込むことも増えたAさん。それでも親が受診について口にするたび「病人扱いするなんてひどい。医者も薬も必要ない」と、怒って聞き入れようとしません。

そしてあるとき、Aさんは出会いがしらの見知らぬ相手とトラブルになり、それを機に精神科病院に入院することになりました。「早く退院したい」と、繰り返し主治医や親に訴えるAさん。デイケアに通うこと、服薬を続けることを約束し、自宅に戻りました。しかし、しばらくするとAさんは家に閉じこもるようになり、調子を崩して再入院することになりました。

その後もAさんは入退院を繰り返し、徐々に入院期間も長引いていきました。

そして、入院生活が10年を越えようとしていたとき、「症状もだいぶ落ち着いてきたから」と病院のワーカーから退院を勧められたAさん。年老いた親の住む実家に帰ることは難しく、グループホームへの入所に向けた準備をしてみないかという話でした。

「病院を出たら、また地域で嫌な思いをするんじゃないか。親と一緒にいない場所で生活なんてできるのだろうか。仕事だってきつとぅまくいかな。退院はしたいけれど、何をどうしていったらいいのだろうか：」

さまざまな不安を頭によぎらせつつ、Aさんはワーカーに言いました。

「私のことを見捨てないでくださいね」

隠されたところの病とつながりの途切れやすさ

長期入院を経験したAさんは、武津さんにもどのように映ったのでしょうか。

「萌木の利用者の多くは、長期入院の影響で社会経験が少なく、地域社会に生きづらさを感じている方たちです。医療や福祉とやっとながってくださった、ほんの一握りの方たちと言えるかもしれません。一方、地域には、Aさんのように病気や障害の受け入れが難しく、支援につながりづらい方たちが、たくさん生活していると思います。病気であることを近所の人に知られたくないと、自宅から離れた病院に通っている人も少なくありません。本

当は身近にあるはずの支援の仕組みも、結果として身近なものになっていない。そうしたことが、こころの病気を持つ人たちの生きづらさにつながっているように思います。

中には『サービスは使いたくない』と話す方もいますが、知らない人に家に来てほしくない、慣れない場所にも行きたくないというのは、とても率直な気持ちですよね。否定的にも聞こえますが、それは『住み慣れた場所でも好きなように自分らしく暮らしたい』という本人の想いとも受け取れます。

精神疾患の特徴の一つは、病状に波があることです。体調の良いときは生活に大きな支障はありませんが、不安や緊張が高まりやすい一面もあります。そのため、生活の場を地域に移しても、気持ちの揺らぎが生まれて外出できなくなったり、訪問を断つたりと、医療やサービスにつながり続けることができずに症状を悪化させてしまうこともあります。家事や金銭管理といった生活スキルはもちろん、地域で暮らしていくためには、病気や障害と向き合いながら、自分からも周囲に助けを求



「本人の困り感が見えづらいことで、地域住民との間に距離が生まれ、孤立は生まれるのではないのでしょうか」と武津さん

◆(医財)青山会
生活支援施設 萌木
三浦市初声町高円坊1544-3
☎046-889-2492
FAX046-889-2494
URL <http://www.bmk.or.jp/>

める力が必要です。

事例のAさんの「見捨てないで」という言葉には、これまでの地域生活で経験した苦悩と挫折、自分自身の無力感や居場所のない寂しさを、込み上げる想いの中でようやく発することのできたSOSのメッセージを感じます」

本人を中心とした理解者・協力者の輪を地域に

こころの病気に対する偏見は根強く、病気を理由に入居を断られたり、必要なサービスタがならず、地域生活に踏み出せない方がいます。一方、本人の生活を守ろうと専門職が抱え込むことで、かえって本人を地域から孤立させてしまったり、「困った人がたくさん住んでいる」と、福祉施設そのものが厳しい視線を向けられることもあります。

「困った人」と見られがちな本人が、実は一番困っている。ただ、本人だけを見ていても地域生活は広がらない。生きづらさを抱える方に、地域に住む方たちがもう少し肩の力を抜いてかかわることができるよう、私たち専門職が間に立って、本人の想いが伝わるように一言添える役割がある」と武津さん。

こころの病気や障害と向き合いながら、地域生活に進もうとする本人の想いを支えていくために、医療・福祉の関係者が土台となる信頼関係を築き、つながり続けること。本人の生活の場において、理解と協力の輪を広げていくことが必要とされています。

(企画調整・情報提供担当)

共に生き、支え合う社会づくり 第62回県社会福祉大会開催報告

永年にわたり、本県の福祉の発展に寄与されてきた方々の功績をたたえる第62回県社会福祉大会を、10月17日、県立音楽堂（横浜市西区）にて開催しました。



①受賞者代表者に感謝状・表彰状を授与 ②講演に立つ矢崎さん ③受賞者代表の丸山さん

第一部の記念講演では、金子みすゞ記念館館長・童話作家の矢崎節夫さんをお招きし、「今、こだますとさきみすゞさんのまなざし」と題してご講演をいただきました。詩の引用を挟みつつ、「否定も肯定も、一方的な励ましもせず、丸ごと受け入れ、うなずき、『こだま』すこと。自分の大切さに気づくことができないにいる方

たちと、これからも『こだま』し合っ
ていきましよう」と語り掛ける矢崎
さんに、来場者から大きな拍手が送
られました。

第二部の式典では、県知事表彰、県
社協会長表彰および感謝、県共同募
金会会長感謝の授与、第21回介護賞
と、第2回かながわ福祉みらい賞の
贈呈式を行いました。

本年度は、県介護賞（8人）、かな
がわ福祉みらい賞（2人）、社会福祉
関係者表彰（48人、9団体）、民生委
員・児童委員永年勤続表彰（10人）、
共同募金運動功労者表彰（25人、16
団体）、県社協会長表彰（572人、
114団体）、県社協会会長感謝（29
2人、13団体）、県共同募金会会長感
謝（121人、41団体）でした。

受賞者を代表して、障害者施設・
川崎市ふじみ園園長の丸山尚さんか
ら「これまで出会わせていただいた
利用者の皆さまに改めて感謝した
い」とご挨拶をいただきました。
今回受賞されました1078人、
193団体の皆さま、おめでとうご
ざいます。今後のさらなるご活躍を
お祈り申し上げます。（総務担当）

障害福祉事業所自主製品の開発と質の向上を目指して 第2回きらっと輝く製品コンテスト開催報告

10月9日、県社会福祉会館にて「第
2回きらっと輝く製品コンテスト」
が開催されました（主催：県、実施：
N）神奈川セルプセンター）。

神奈川県下の障害福祉事業所で作
られている自慢の自主製品を持ち寄
り、専門家等による評価を行うこと
で、事業所での生産活動を活性化し、
利用者の生産意欲を高めることがこ
のコンテストのねらいです。昨年に
続き2回目となる今回のコンテスト
には、食品部門33製品、非食品部門21
製品と、昨年より5つ多い合計54製
品がエントリーしました。

製品の包装や色合いがよく分かる
ようにと選んだ日当たりのよい会場
は、10月とは思えない暑さも手伝い、
プリンなどをどう冷たく維持するか
悩んだり、反対に温かいコーヒーが
冷めてしまうので審査直前に淹れた
りなど苦労もありましたが、N）神奈
川セルプセンターの役員をはじめ、
応援の事業所職員たちの協力で素早
く準備が整いました。

審査員は、県銘菓共励会や県商工
会連合会、神奈川県生活協同組合連
合会等から集まった7人の方が務め

ました。製品そのものの品質・デザイ
ン・アイデアの良さ・価格・利益率・
利用者の参加の度合い等の7つの項
目を、専門的な視点から、それぞれ評
価して採点していただきましたが、い
ずれも甲乙つけがたい出来栄の良さ
に、審査員たちも評価に苦心する様
子が見られました。
コンテストの結果は、本紙でもお
伝えしますが、来る12月18日にはま
ぎんホールにおいて表彰式が開催さ
れる予定です。



①～③セッティングは審査直前に。食品
部門では、味はもちろん、パッケージで
も審査員を魅了しました

（社会福祉施設・団体担当）

看護師再就労応援セミナーのご案内

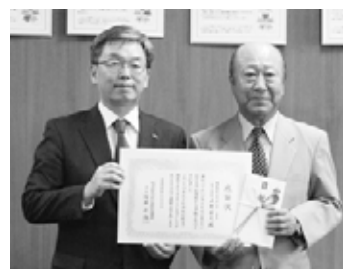
- 福祉施設等での生活を支える看護師の再就職を促進するため、研修会・説明会・個別相談会等を開催します。
- ◇日時＝①12月16日(月)、②1月28日(火)いずれも午後1時～4時30分
 - ◇会場＝①ユニオンビル(富士通労働会館)(川崎市中原区)、②(公社)神奈川県看護協会 キャリア支援研修センター藤沢(藤沢市)
 - ◇対象＝看護師資格を有する方
 - ※直接会場にお越しください
 - ※希望者には、見学・実習受け入れを行う福祉施設等を紹介いたします
 - ※託児あり(要予約)
 - ◇問合先＝本会福祉人材研修・介護支援専門員支援担当
 - ☎045-311-1429 FAX045-313-0737
 - E-mail kensyu@knsyk.jp

平成25年度交通遺児大学等入学支度金のご案内

- (公財)神奈川新聞厚生文化事業団から、大学等に進学を希望する交通遺児の高校生に対し、入学支度金を支給します。
- ◇支給額＝1人40万円(返済の必要はありません)
 - ◇対象＝平成26年4月に大学・短大・専門学校に進学する5人を予定
 - ◇提出書類＝所定の申請書、成績証明書、課題作文(テーマ「10年後の私」800字以内)、交通遺児であることを証明する公的な書類、主たる家計支持者である保護者の所得証明書
 - ◇申請締切＝1月31日(金)消印有効
 - ◇支給決定＝平成26年2月末日
 - ◇問合先＝(公財)神奈川新聞厚生文化事業団
 - ☎045-222-0615 FAX045-222-0614

寄附金品ありがとうございました

- 【一般寄付金】広瀬公子
- 【子ども福祉基金】(株)NTTドコモ 神奈川支店、結城純、佐藤和成、遠藤康寿
- 【ともしび基金】(福)恩賜財団済生会 若草病院、座間市グラウンド・ゴルフ協会、菅井良幸、ともしびショップポエム'10、脇隆志 (合計 567,547円)
- 【寄附物品】神奈川県石油商業組合・神奈川県石油業協同組合、日本シャクリー(株) (いずれも順不同、敬称略)



(株)NTTドコモ神奈川支店より子ども福祉基金へご寄附いただき、野智久支店長(左)へ感謝状贈呈

第12回かながわ高齢者福祉研究大会・優秀賞を決定しました!

研究発表・技術発表の各優秀賞を決定し、10月9日に表彰式を開催しました。詳しくは、大会ホームページをご確認ください。



第12回大会の各賞受賞者の皆さん

【問合先】本会社会福祉施設・団体担当
☎045-311-1424 FAX045-313-0737
URL <http://www.kanagawafukushitaiikai.jp/>



<障害者週間キャンペーン事業>

ハートフル・クリスマス～にやさしく、人がやさしく

障害や障害のある方への理解を進めていくことを目的に、障害者週間キャンペーン事業を行います。皆さま、ぜひ、ご来場ください。

日時＝12月12日(木) 正午～午後7時
12月13日(金) 午前10時～午後7時
場所＝かながわ県民センター1階 展示場

- ★ 障害のある人たちの手作り商品販売コーナー (手作りクッキー、ケーキ、クリスマス雑貨など)
- ★ 商品づくり・自助具体験コーナー
- ★ ともしびポスター・絵本コンテスト入賞作品展示
- ★ 東日本大震災支援コーナー



昨年の様子

かながわ県民センター常設の「ともしびグッズコーナー」では、「クリスマスフェア(12月1日(日)～13日(金))」を開催しています!

【問合先】(N)神奈川県障害者地域作業所連絡協議会
☎045-290-0501 FAX045-290-0201
URL <http://www.syousakuren.jp/>



ー社会福祉施設の設計監理ー

株式会社 安江設計研究所

東京都港区高輪 2-19-17-808
Tel 03 (3449) 1771(代) / Fax 03 (3449) 1772
E-Mail yasue@yasue-sekkei.co.jp
URL <http://www.yasue-sekkei.co.jp/>

新築・増築・改修の他、耐震診断・建物定期報告・アスベスト調査等お気軽にご相談ください



お気軽にご相談ください!

株式会社 あんざい

横浜市港南区下永谷 3-24-29
TEL 045-822-8497
FAX 045-824-1303
mail: anzai@p-anzai.jp

商業施設内に福祉ボランティア活動センター

湘南大庭地区社会福祉協議会(藤沢市)

藤沢市西部に位置する湘南大庭地区は、高度経済成長期にニュータウンとして開発された場所、急速に高齢化が進んでいます。

湘南大庭地区社協(以下、「地区社協」)は、こうした状況を踏まえ、介護予防教室や生きがいづくりの交流事業を中心に活動していましたが、平成18年、今後さらに予測される高齢者の孤立や困りごと増加への対応の検討を本格的に開始。これがかつかけとなり、住民の生活ニーズ相談を助け合いによって解決する「福祉ボランティア活動センター」ライフタウン・ジョワ



①拠点は建物の3階に ②右から、ジョワ事務局長の内藤さん、地区社協会長の川原田武さん、ジョワ事務局長の石井巖さん、傾聴ボランティアの伊藤さん【表紙】 ③空き教室で月1回のサロン ④⑤活動の一コマ。庭木の選定・草取り、粗大ごみ搬出

(以下、「ジョワ」)を平成20年から開始しました。

困りごと相談と生きがいづくり

ジョワとは、助けあいの輪からとった愛称で、ジョウ助、ワウ輪を意味します。会員制(支援会員・利用会員)による活動で、例えば、庭の草取りや家具の移動といった日常の困りごとの手助けから、傾聴やパソコン操作指導といった生きがいづくりまで、住民のさまざまなニーズ・相談に住民自身がボランティアで対応します。

特徴の一つが拠点のある場所。ジョワは商業施設内にあります。立ち上げ時、活動拠点を探していたところ、ジョワ事務局長の内藤淳之さんが、商業施設の3階にある空き部屋に着目。当時の店長が交渉に快く応じてくれたそうです。今ではボランティア相談のほか、月1回サロン活動を開催。活動の後、参加者同士で一緒に買い物をしていかれるなど、お店にとっても良い効果があるようです。

もっと見つけたいニーズと人材

ジョワの現在の協力会員は61名、利用会員も徐々に増えています。傾聴ボランティアが訪問を続けるうち、家にこもりがちだった人がサロン活動に参加するようになるなど、活動からは確かな手がたえが感じられます。

課題の一つは埋もれたニーズの発掘です。「地域から孤立している人はまだまだ多い」と地区社協の皆さんは言います。もう一つの課題は人材・担い手づくり。活動を始めた当初に実施した住民アンケートでは、協力の意志を示してくれた人が多かったそうです。「ここは潜在的に人材の豊富な地区。いかに活動に参加してもらい、やりがいを持ってもらえるか」と内藤さん。住民のさらなる参加を促そうという強い意志を感じます。

住民による助け合い活動、活動を通じた輪づくり。湘南大庭地区には、住民が主役になった地域福祉活動のエッセンスと魅力がたくさん詰まっています。

(地域福祉推進担当)

※本年度の県社会福祉大会にて、優良地区社協として表彰されました。

株式会社イチネンは「安全・安心」をお得にご提供致します!!

クルマの事なら福祉車両リース、ガソリン、事故修理、駐車場管理全てお任せ下さい!!



ダイハツ タントスローパー

月額リース料: 24,200円 (税別)
(お支払総額: 1,452,000円)

スズキ アルトセダン

月額リース料: 13,900円 (税別)
(お支払総額: 834,000円)

※上記リース料には消費税は含まれておりません。
※全て5年リース、月間走行距離800km以下の条件。

左記はあくまで一例です。
その他国産車何でもご提案可能です。

株式会社イチネン

株式会社イチネン 東京支店
株式会社イチネンホールディングス(東証一部上場)100%出資事業会社
東京都港区芝浦4-2-8 住友不動産三田ツインビル東館8階
TEL 03-6400-3555 FAX 03-5232-8510
URL=www.ichinen.co.jp 神奈川エリア営業担当: 加部 達矢



「福祉タイムズ」は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています

【発行日】2013(平成25)年11月15日(毎月1回15日発行) 【編集発行人】鈴木和夫
【発行所】社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 【印刷所】株式会社神奈川新聞社
〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4番地の2 ☎045-311-1423 FAX045-312-6302 E-mail kikaku@knsky.jp

ご意見・ご感想をお待ちしています!